



じんけん へいわ しりょうかん
人権平和資料館だより

2026^{ねん}（令和^{れいわ}8^{ねん}）1^{がつ}月

HUMAN RIGHTS & PEACE

だい 301 号
第301号

〒720-0061 福岡^{ふくやま}市丸之内^{まるのうち}1-1-1

TEL 084-924-6789 FAX 084-924-6850

じんけん へいわ
人権と平和は

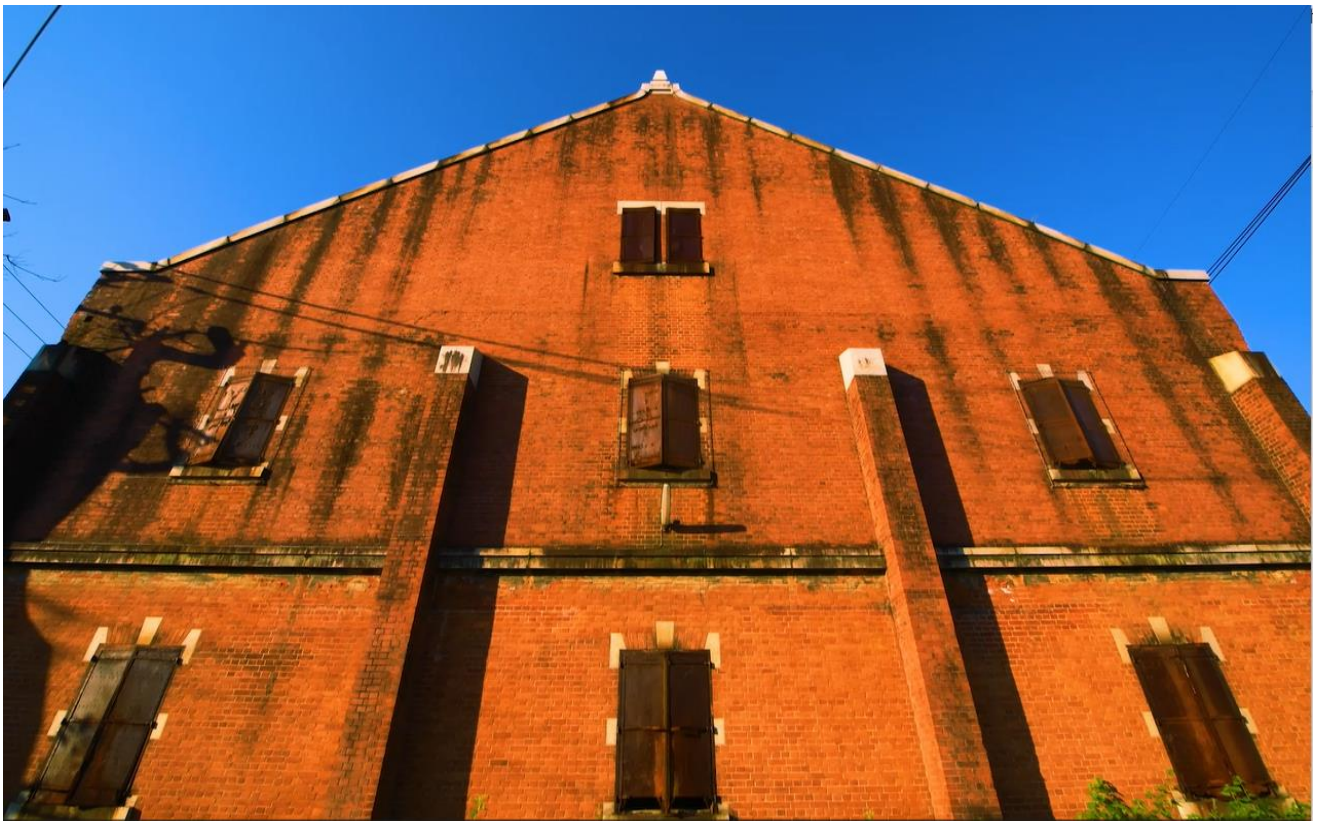
21^{せい}世紀のキーワード

jinken-heiwa-shiryokan@city.fukuyama.hiroshima.jp

ひばく たてももの きゅうひろしまりくぐん ひふくししょう てん
被爆建物「旧広島陸軍被服支廠」展

あか そうこ かた
～赤レンガ倉庫は語る～

きかん がつ にち にち がつ にち にち
期間 1月25日(日)～3月29日(日)



きゅうひろしまりくぐんひふくししょう
旧広島陸軍被服支廠とは

「瞬^{しゅん}を刻^{きざ}む」より (株)ニッショウプロ作成^{さくせい}

きゅうひろしまりくぐんひふくししょう どうきょう りくぐん ひふくほんしょう ししょう し ぶ
旧広島陸軍被服支廠は、東京にあった陸軍の被服本廠の支廠（支部）です。その
りくぐんひふくしょう ねん めいじ ねん がつ せいてい ひふくしょうじょうれい りくぐんしょうたつ
陸軍被服廠は、1886年（明治19年）3月に制定された被服廠条例（陸軍省達 16
ごう もと せっち りくぐんしょう ひふく ちょうたつ せいぞう ほきゅうどう にな
号）に基づき設置され、陸軍所要の被服の調達・製造・補給等を担いました。1904
ねん めいじ ねん がつ にちろせんそう ほっぱつ せんち かえ かんそうひふくひん せんたく
年（明治37年）2月に日露戦争が勃発し、戦地から返ってくる還送被服品の洗濯
しゅうり ひろしましひじやま こうじょう けんせつ ばしょ ひふくしょう
修理のため広島市比治山に工場が建設されることとなり、やがてその場所に被服廠

ひろしまはしゅつじょ せっち げんそん とう そうこ だいごしだんけいりぶ じっし
の広島派出所が設置されました。現存する4棟の倉庫は、第五師団経理部が実施
せつけい ねん めいじ ねん がつ こうじ ちゃっこう ほんたいこうじ かんせい
設計としてまとめ、1911年（明治44年）12月に工事に着工し、本体工事が完成
し、倉庫としての供用が開始されたのが1914年（大正3年）4月になります。

ひばくちやくご ひばくしゃ りんじきゅうごじょ しよう おお かた な
被爆直後は、被爆者の臨時救護所として使用され、多くの方が亡くなりました。
せんご がっこう きょうしつ うんそうがいしゃ そうこ かつよう ねん へいせい ねん
戦後は学校の教室や運送会社の倉庫として活用されました。1994年（平成6年）
ひろしまし ひばくたてもの とうろく げんざい かつよう
に広島市が被爆建物として登録しています。現在は、活用されないままとなっており、
けん り かつよう けんとう あんぜんたいさく じっしせつけい おこな
県では、利活用の検討や安全対策の実施設設計などを行っています。

あわ ねん れいわ ねん ど じゅうようぶん かざいして い む けんちくぶつ か ち ちょうさ
併せて、2021年（令和3年）度より、重要文化財指定に向けた建築物の価値調査
じっし ねん れいわ ねん がつ ちょうさけっか と けっか ふ
を実施し、2023年（令和5年）3月に調査結果を取りまとめました。その結果を踏
まえ、2023年（令和5年）11月24日に国の文化審議会文化財分科会において、
じゅうようぶん かざい して い とうしん おこな ねん れいわ ねん がつ にち じゅうよう
重要文化財に指定するよう答申が行われ、2024年（令和6年）1月19日に、重要
ぶん かざい して い
文化財に指定されました。

げんそん とう とう けん とう くに ちゅうごくざいむきょくしよかん しょう
現存する4棟のうち3棟を県が1棟を国（中国財務局所管）が所有しています。
じんるいしじょうはじ ひろしま げんぱく とう か ねん す さ ひばくたてもの
人類史上初めて広島に原爆が投下されて80年が過ぎ去りました。この被爆建物
かた かくへいき きょうふ ひじんどうせい し わたし かくへいき はいぜつ しん
が語りかける核兵器の恐怖と、その非人道性を知る 私たちは、核兵器の廃絶と真の
こうきゅうへいわ じつげん うった つづ しめい こんかい
恒久平和の実現を訴え続けていかなければならない使命があります。今回の
きかくてん げんそん ひばくたてもの こくないさいだいきゅう たてもの
企画展では現存する被爆建物としては国内最大級の建物である
きゅうひろしまりくぐんひふくししょう とお はんせん ひかく おも つよ かつよう
旧広島陸軍被服支廠を通して反戦・非核の思いを強くするとともにその活用につい
かんが
ても考えるきっかけとしていきます。

こうえんかい わたし ひばくたいけん きゅうひろしまりくぐんひふくししょう
講演会：「私の被爆体験と旧広島陸軍被服支廠」

にち じ がつ にち にち
日時：2月22日（日）13：30～15：00

こう し ひばくたいけんしやうげんしや きりあけ ち え こ
講師：被爆体験証言者 切明 千枝子 さん

ば しょ ふくやましじんけんへいわしりょうかん
場所：福山市人権平和資料館

にゅうじょうむりよう
入場無料

こうし 講師プロフィール

ねん しょうわ ねん きゅうせい たばい
1929年（昭和4年）生まれ。旧姓：煙井。
こうとうじやがっこう ねん げんざい こうこう ねん
高等女学校4年（現在の高校1年）だった15
さい とき ばくしんち ろじょう ひばく
歳の時、爆心地から1.9kmの路上で被爆。
ひろしまじょしせんもんがっこう げん けんりつひろしまだい そつぎょうこ
広島女子専門学校（現・県立広島大）卒業後の
ねん しょうわ ねん ひろしまけんきょういくいいんかい
1949年（昭和24年）に広島県教育委員会に
しゅうしよく さい ひばくたいけん しょうげん はじ
就職し、85歳で被爆体験の証言を始める。
ひろしまへいわきねんしりょうかん しゅうがくりょうこうせい
広島平和記念資料館などで修学旅行生など
こうわ ひばくたいけんしやうげんしや
に講話をする「被爆体験証言者」としても
かつどう げんざい きゅうひふくしょう ほせん ねが
活動している。現在「旧被服支廠の保全を願う
こんだんかいめいよかいちよう
懇談会名誉会長」

